



SHIRETOKO
NATURE FOUNDATION



Shiretoko Nature Foundation

ANNUAL REPORT

年 次 報 告

2025



FSC マーク位置

公益財団法人 知床財団

ANNUAL REPORT - 年次報告 - 2025

公益財団法人 知床財団

知床財団のMission

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、

- ・世界遺産知床の自然を守り、よりよい形で次世代に引き継いでいきます。
- ・野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

contents

はじめに	02
知床財団の12 ヶ月	04
「知る」活動	06
「守る」活動	10
「伝える」活動	14
事業収支・いただいたご支援	18
賛助会員	20

はじめに

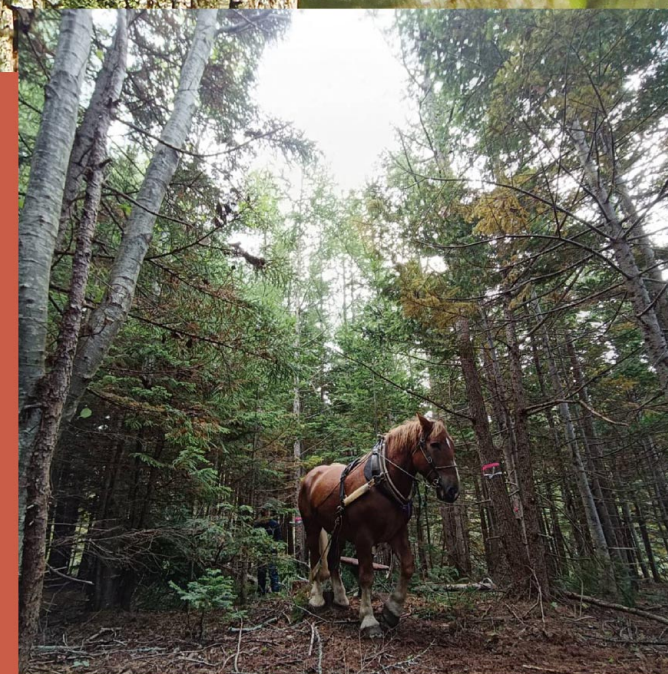
2025年に知床は世界自然遺産登録20周年を迎え、この節目を記念して様々な催しが行われました。知床財団は大阪・関西万博で5月と6月に知床での取り組みの成果や課題を発信する機会をいただき、11月には斜里町にて地域連絡会議と連動した、世界自然遺産登録20周年記念知床シンポジウム「世界自然遺産と地域のあゆみ」を、2月には札幌市にて科学委員会と連動した、世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム「知床世界自然遺産と地域のこれから」をそれぞれ企画し、20年間の成果を振り返りつつ、知床の未来を考える場を設けることができました。

一方で、8月には羅臼岳登山道で登山者がヒグマに襲われる事故が発生し、バックカントリーエリアでのヒグマ対策と関係機関の連携に関する課題を痛感したのも事実です。

数多くある知床の課題に対し、即効性のある「特効薬」や「新薬」があるわけではありません。しかし、知床全体を俯瞰しながら、私たちに取り組んでいる「知り、守り、伝える」活動をこれまでどおり積み重ねた先にこそ「知床の未来」があると強く感じた1年でした。

2025年度も多くの皆さまから心のこもったご支援をいただきました。このレポートを通して活動の一端をお伝えすることができれば幸いです。

理事長 村田良介



10年
PROJECT

知床財団 10年プロジェクト

10年プロジェクトは、知床財団が10年後にめざす姿を明らかにした私たちの羅針盤です。「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現」、「野生動物と折り合いとつけていく地域社会の実現」、「しれとこ100平方メートル運動の推進」及び「自主・自立の旗を立てる」の4つの大きな柱から成っています。

知床財団の12ヶ月 ～2025年度の活動・出来事から～

2025

4月

- 知る エゾシカライトセンサス調査(ルサ～相泊・幌別～岩尾別) サケ類稚魚調査
- 守る クマ端会議(斜里・ウトロ)開催
- その他 新年度業務開始 新入職員研修 獣魂慰霊祭



5月

- 知る 知床半島浅海域貝類定量調査(5月・8月) 知床岬シカ密度推定試行調査(5～10月)
- 守る 春の森づくりボランティア
- 伝える クマ授業実施 EXPO 2025 大阪・関西万博 登壇 ！
たきのアウトドアピクニック2025(第12回北海道キャンピングフェア)参加
- その他 第1回理事会



6月

- 知る シカ捕獲認証(Deer Culling Certificate: DCC)2名受講 クマゲラ生息状況 モニタリング
- 守る 初夏の森づくりボランティア イワウベツ川魚類調査
- 伝える EXPO 2025 大阪・関西万博 登壇 ！
NHK北見「赤羽気象予報士のお天気ワンポイントトーク！in 知床」・釧路「知床・大いなる自然の世界」イベント実施 ！
- その他 知床自然センター館内上質化計画(什器更新) 定時評議員会 夏期インターンシップ(6月～9月)

7月

- 知る しれとこ博物プロジェクト昆虫類採集開始
- 守る 知床五湖スイレン除去作業 カムイワッカ湯の滝本格運用開始(7月～9月)
- 伝える 第43回 知床自然教室 Cafe湯ノ沢 開催(7月・10月・2月)

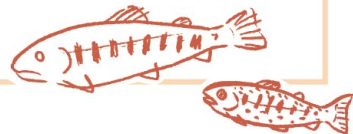


8月

- 守る 羅臼岳登山道ヒグマ人身事故 対応と検証 カムイワッカ地区マイカー規制 夏の森づくりボランティア
- 伝える 知床国立公園60周年・世界遺産20周年記念事業実行委員会 主催 記念シンポジウム開催 ！
一般社団法人青年会議所 創立70周年 記念事業「知ろう・味わおう 斜里郡3町 ふれあいマルシェ」参加
東京大学サマープログラム LEARN with Porsche 2025 受け入れ

9月

- 知る イワウベツ川 利用者動向のモニタリング開始
- 守る ダイキン工業ボランティア 「サケマス&遺跡を想うツアー in ルサ」開催
- 伝える SHIRETOKO Adventure Festival2025 開催 旭山動物園 あにまるハッピーマーケット 出展
しれとこ産業まつり出展 斜里っ子自然教室 ルサカフェ
- その他 緊急銃猟制度施行



10月

- 守る クマ端会議(斜里)開催 町内 ヒグマ緊急銃猟訓練
森づくりワークキャンプ 森の集い(植樹祭) 馬搬プログラム
- 伝える 知床サスティナブルフェス 開催
株式会社ゴールドウイン(人事部)・サプライヤー企業研修
- その他 第2回理事会



11月

- 知る 道東自然系施設ネットワークワークショップ及び2025年度総会 参加
知床インタープリテーション全体計画ワークショップ 開催
「洞爺湖中島エゾシカ管理推進業務」視察研修
- 伝える 知床財団主催 世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム「世界自然遺産と地域のあゆみ」開催

12月

- 守る エゾシカ個体数調整(12月～2月)
- その他 職員全体研修



2026

1月

- 守る ダイキン工業ボランティア 冬の森づくりボランティア(1月・2月)
- 伝える 《Aurora Wonderland ～オーロラ通して「奇跡の地球のすばらしさ」を伝える～》@KINETOKO 実施
知床の日 記念行事 参加

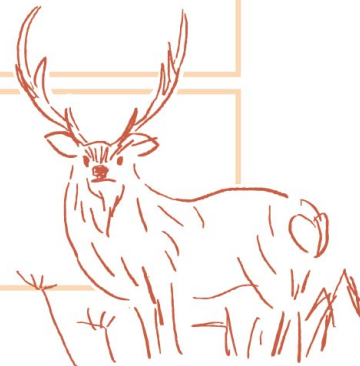


2月

- 知る 知床インタープリテーション全体計画ワークショップ 開催
International Deer Biological Congress(国際シカ生物学会議)
- 守る クマ端会議(羅臼)開催
- 伝える 知床財団主催 世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム「知床世界自然遺産と地域のこれから」開催
AIRDO就航 20周年記念ステッカー配布
- その他 冬期インターンシップ(2月・3月)

3月

- 知る 知床生態系維持回復事業 エゾシカ航空カウント調査業務
- 守る 株式会社ゴールドウインSHIRETOKO NATIONAL PARK STUDY TOUR 実施
- 伝える 弟子屈町立和琴小学校 弟子屈町立美留小学校 クマ授業 実施
冬の来館者促進 KINETOKO上映イベント
- その他 第3回理事会



知床の魅力や活動を世界へ発信

大阪・関西万博 登壇&ブース出展

2025年、日本国内外から大きな注目を集めた「大阪・関西万博」へ、知床財団も世界自然遺産地域5か所で作成する団体のひとつとして2度の出展の機会をいただきました。5月に開催された「自然保護と暮らしを両立させる取り組みの深化に向けて」では、国内の世界自然遺産地域の事例や課題についてのトークプログラムに参加しました。6月に開催された「千の自然 千の時間 私たちと世界自然遺産5地域」では、知床地域を代表してEXPOホールにて知床の取り組みを紹介したほか、知床の動植物や産業を紹介するパネル展示を通して、多くの来場者に知床の魅力を発信しました。

国際的な舞台での出展を通して、知床の価値や課題を広く国内外に発信するとともに、他地域との連携や今後の保全活動のさらなる発展に向けた貴重な機会となりました。

20年の歩みを振り返り、未来へ繋ぐ

世界自然遺産登録20周年を迎えました

知床は2025年に世界自然遺産登録20周年を迎えました。2024年度の国立公園指定60周年記念に続き、2025年度も周年を記念した各種イベントが開催されました。

6月には、斜里町および羅臼町においてNHK北見放送局およびNHK釧路放送局と連携したイベントが開催されました。また、8月には、知床国立公園60周年・世界遺産20周年記念事業実行委員会による海をテーマとしたシンポジウムが開催され、アクアマリンふくしまの松崎浩二氏による基調講演の後、地元住民を交えたパネルディスカッションが行われました。

これらのイベントを通じて、世界自然遺産登録20周年を振り返るとともに、その価値および意義について改めて理解を深める機会となりました。

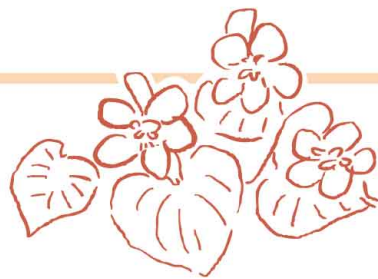




しれとこ博物プロジェクト

10年
PROJECT

動植物の採集を開始



植物調査の図鑑による同定作業



魚類調査で採取されたイワゲンゲ



現在、熱波や干ばつ、強力な嵐など、地球温暖化が主な原因とされる気候変動が世界各地で発生しています。知床半島でも海水温や一部の河川水温の継続的な上昇が確認されており、漁獲される海水魚の種構成の変化や冷水性淡水魚の分布縮小など、生態系における様々な変化がすでに発生しています。

また高病原性鳥インフルエンザのような感染症のパンデミック（世界的流行）や、突発的に起こる気象イベント、また、それに伴う地形変化などにより、知床半島の生態系は常に変化し続けています。こうした生態系の変化を評価するには、変化が発生する前の生物相の状態について「科学的・定量的な情報」が必要不可欠ですが、将来的な予測はとても困難です。そのため、現在の生物相を早期に保存・記録しておく必要があります。「しれとこ博物プロジェクト」はこのような課題意識のもと、立ち上げられました。

「しれとこ博物プロジェクト」は2024年度から2034年度までの長期にわたるプロジェクトで、知床半島の生物相を象徴する種を含む様々な生物の形や細胞をそのまま保存する「形態標本」や「遺伝子標本」を集め、2020年代に

おける知床の生物多様性について、50年後、100年後に参照可能なデータを記録・保存することを目的としています。

1年目の2024年は、「植物」「昆虫」「海生生物」といった各分類群について有識者へのヒアリングを実施し、標本の保管方法について情報収集を行いました。ヒアリングを受け、各標本の作成方法を決定し、「^{さくようひょうほん}腊葉標本」や「液浸標本」、「遺伝子標本」をメインに、さらに常温保管が難しいものについては超低温での保管場所の確保も行いました。また、大学博物館との「標本保管に係る協力関係」の構築など、長期保管に向けた準備を進めました。

2年目である2025年度は、植物及び海生生物について本格的な採集を開始しました。植物ではフレベの滝遊歩道付近において、当初の目標であった30種を上回る40種以上の植物を採集し、標本化しました。海生生物についても、10数種について遺伝子標本を採集しました。昆虫についてはトラップ採集の探索と、試行的な採集を実施しました。

2026年度は、植物において未採集となっている初春に生育・開花する種の収集を目指すほか、昆虫類について前年の試行結果に基づき、本格的な採集を開始する予定です。

※ 本事業はダイキン工業株式会社からのご支援により実施しております。



半島全域 航空カウント

10年
PROJECT

知床半島全域のエゾシカ航空カウント調査を実施

知床では、エゾシカの増加による植生への影響が懸念されています。この調査は、毎年冬期に環境省の事業として実施しているもので、知床半島エゾシカ管理計画に関わる重要な調査として位置づけられています。例年は知床世界自然遺産地域を対象としていますが、2025年度は5年に1度の調査年にあたり、知床半島全域を対象として実施されました。

調査の結果、知床半島内に設定されている調査区30区画において、2,199頭のエゾシカを確認しました。5年前の2020年度における調査結果は、1,734頭であったことから、知床半島全域において、個体数が増加傾向にあることが明らかになりました。



上空からカウント調査を行うヘリコプター



半島先端部のコア地域では写真でシカをカウント



知床岬シカ密度推定試行調査

10年
PROJECT

自動撮影カメラを用いた新たなエゾシカ調査を開始

知床では、エゾシカの生息状況を把握する手法として、長年ヘリコプターによるカウント調査（航空カウント調査）が行われています。この手法は、広い範囲の状況を一度に把握できる利点がある一方で、把握できるのが調査時点の状況に限られることや、ヘリコプターのチャーター費用が高額であることが課題とされています。こうした背景から、2024年より知床岬先端部地区では、環境省事業として自動撮影カメラを用いたエゾシカの生息状況調査が進められています。約3km四方の区画に、15分間隔で撮影するカメラや、動物の通過時に作動するカメラなど、目的に応じた設定のカメラを20台以上設置し、新たな知見の蓄積を進めています。



自動撮影カメラの設置



自動撮影カメラに認識されたエゾシカ

4

イワウベツ川利用者動向のモニタリング

イワウベツ川で利用者の動向調査を実施

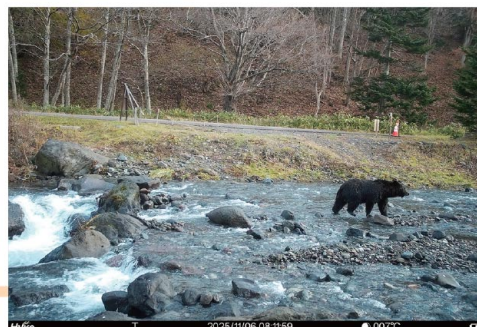
知床国立公園内のイワウベツ川周辺では、ヒグマの観察・撮影を目的として道路沿いに待機する車両による交通障害や、ヒグマへ過度に接近したり至近距離で撮影を行ったりする危険な行為が、例年数多く確認されています。こうした行為は、ヒグマの人なれを助長する恐れがあるほか、人身事故につながる危険性も指摘されています。

このような状況を受け、2022年に施行された改正自然公園法では、ヒグマへの過度な接近やつきまとい行為等に対する新たな規制が設けられました。しかしながら、問題となる行為は依然として後を絶ちません。

知床財団は2025年度より、これらの危険行為を抑制する効果的な対策を検討するため、北海道大学の協力のもと、イワウベツ川周辺に自動撮影カメラを設置し、ヒグマ観察・撮影に伴う利用者行動の実態把握に取り組んでいます。



自動撮影カメラの設置



自動撮影カメラに映ったヒグマ

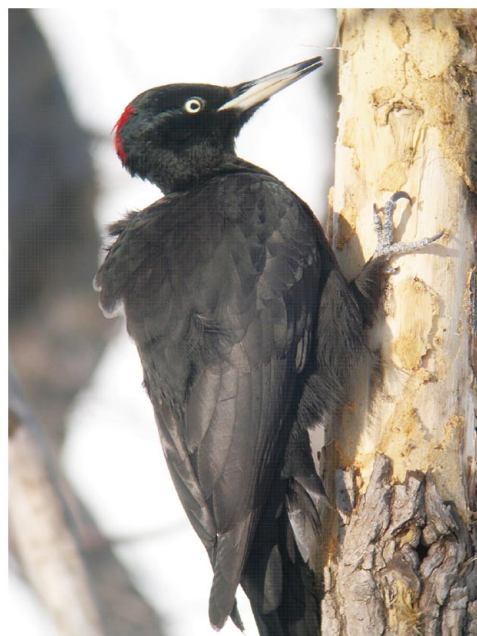
5

クマゲラ調査

10年
PROJECT森林再生の進捗を測る
クマゲラ調査

クマゲラは、老齢林 (Old-growth forest) など豊かで成熟した森を好んで生息すると言われており、「しれとこ100平方メートル運動」における森林再生の進捗を測る指標種の一つに位置づけられています。私たちが森づくりを進めている860ヘクタールの作業地に、何羽のクマゲラが生息しているのかを明らかにするための調査を行いました。

作業地内32地点で、クマゲラの「キョーン」という鳴き声をスピーカーで再生し、鳴き返した個体を数える「プレイバック法」による調査を実施した結果、3羽の成鳥を確認することができました。クマゲラはペアで行動するため、少なくとも6羽 (3ペア) が生息しているものと推測されます。私たちが再生している森が老齢林に変わる100年後には、今よりも多くのクマゲラが生息する森になっていることを期待しています。



しれとこ100平方メートル運動地に生息するクマゲラ



6

洞爺湖視察

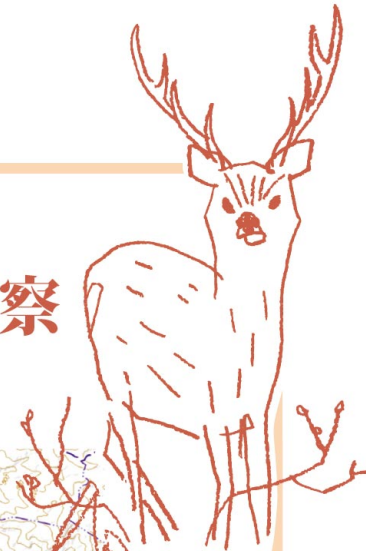
10年
PROJECT洞爺湖中島エゾシカ捕獲の現場視察
～他地域の取り組みを知る～

11月、職員研修の一環として洞爺湖に浮かぶ中島で実施されているエゾシカ捕獲の現場を視察しました。洞爺湖中島では1960年前後に持ち込まれたエゾシカが急増し、自然環境への影響が懸念されているため、行政や研究機関によって長年にわたり捕獲や調査が行われています。今回は、環境省の捕獲事業を担うエゾシカ協会の職員に5日間同行し、実際の捕獲現場を体験しました。

洞爺湖中島は一周約5kmの比較的大きな島ですが、新たにエゾシカが流入しない隔離された環境にあります。そのような場所であっても根絶には多大な労力がかかるという現実を目の当たりにし、知床におけるエゾシカ管理のあり方や捕獲事業の重要性について改めて考える機会となりました。

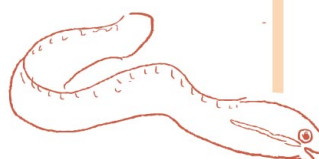


洞爺湖中島の地形図と遠景



7

浅海域調査

10年
PROJECT知床の海の変化を捉える、
潮間帯の貝類定量調査

知床半島両岸の潮間帯 (磯場) で6年ぶりに貝類の調査を行いました。知床が世界自然遺産登録された翌年の2006年からおおむね5年ごとに、東京農業大学と北海道大学とともに環境省事業として実施しています。この調査は、知床の海で生物の変化を定量的 (同じ場所と範囲にいる生物を種別に計数し数値で表す) に把握する唯一の方法です。

分析の結果、遺産登録以降の種数や多様度の指標に大きな変化は見られませんでした。一方で詳細な分析結果を見ると、主に冷たい海に生息する冷水性種の個体数が減少し、温暖性種が増加しているという傾向がありました。知床沿岸が温暖化していることに対する貝類群集の応答と考えられ、今後の調査がより重要になります。



調査の様子





羅臼岳登山道ヒグマ人身事故 対応と検証

羅臼岳登山道で発生した ヒグマ人身事故について



事故現場に向かうために集合するスタッフ



事故検証の会議



2026 年度から開始した登山口におけるレーティング揭示の様子

2025年8月14日に羅臼岳（岩尾別コース）において登山者がヒグマに襲われ、死亡する人身事故が発生しました。知床のヒグマ対策に長年携わってきた私たちにとって、深刻で重大な事案でした。

事故の対応は関係機関で構成する「知床ヒグマ対策連絡会議」が中心となって行われました。私たちはその一員として事故発生直後から、現場の捜索や加害個体の捕獲、事故の調査と検証、広報や情報発信といった前線の対応にすべての職域のスタッフが一丸となり取り組みました。

重大な事故対応は常に前例のないものであり、対応のすべてが最善で円滑だったとはいえません。また、多くの関係者が関わり、刻々と状況が変化するなかで、判断と行動を絶え間なく継続しなければなりません。このようなときこそ、普段の業務への姿勢や組織間、個人間の信頼関係が問われるのだと再認識する契機となりました。

社会的な反響も大きく、連日多くの問い合わせやメディア対応が続きました。さまざまなご意見やご批判もあり、それだけ多くの方々がこの事故を自分事として捉え、胸を

痛み、危機感を感じている表れなのだと受け止めました。一方、ご支援や励ましをいただくことも多々ありました。肉体的・精神的な負担が増すなかで、こうした声により前を向くことができたことも確かです。この場で改めて感謝を申し上げたいと思います。

人身事故は取り返しがつきません。私たちにできることは、事故発生の事実我真摯に向き合い、科学的な視点から詳細に調査し、原因や教訓を明らかにし、地域や社会と対話しながら今後の対策に活かしていくことだと考えます。

年度末には事故報告書を取りまとめ、事故の検証に基づく課題を整理するとともに再発防止に向けた対策パッケージを知床ヒグマ対策連絡会議として公表※しました。対策の柱として ①登山者に対し、事前にリスク情報や行動規範を提供して行動変容を促す仕組みの構築、②問題個体確認時の登山道閉鎖に関する判断基準や手順の明確化、③知床半島ヒグマ管理計画の見直し、などが示されており、2026年の登山シーズンからの運用に向けた準備を進めています。

※今回の事故に係る報告書や再発防止対策は知床データセンターのwebサイトから参照することができます。
<https://shiretokodata-center.env.go.jp/press/houdou.html>



スイレン刈り取りロボット 始動

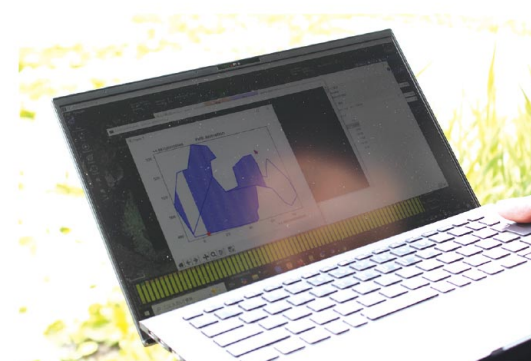
知床五湖 1 湖の 園芸スイレンの除去活動とモニタリング

知床五湖の1湖に繁茂する園芸スイレン除去計画の2年目として、1湖の景観改善を目的としたスイレンの除去作業を行いました。本業務は環境省事業として行っており、作業は関係者及び地域住民の協力のもと実施しています。6月に開催した2日間のイベントには延べ42名の参加がありました。また、これらのスイレン除去作業の効果検証を目的としたドローンによるモニタリング調査も実施しました。

さらに、東京大学の海津教授の協力の下、スイレン刈り

取りロボットボートの試運転も実施しました。これまでの除去作業は手作業のみでしたが、機械を導入することで、除去量の増加が確認されました。

次年度は刈り取りロボット「KARI-KO」の使用を本格的に進め、手作業による作業と併せてより一層効果的なスイレン除去活動を実施します。また、近年は2湖と3湖のスイレンも拡大しているため、モニタリング調査およびさらなる除去作業にも着手する予定です。



ロボットボートは、予め指定した進路データにより自動操船される



除去したスイレンを集める



スイレンが繁茂する
知床五湖の1湖

3

新たな森づくりの手法を検討

馬搬による森づくりの検証

「馬搬（ばはん）」という言葉をご存知でしょうか。馬の力を利用して農業や林業を行う手法で、開拓時代には知床でも活用されていました。近代林業では重機を用いた施業が主流ですが、ヨーロッパでは、土壌や根を傷つけず化石燃料の使用も抑えた馬搬（Horse Logging）が再評価されています。2025年度は、道内唯一の馬搬林業を営む「西埜馬搬」の協力のもと、知床の森林再生でも実際に馬搬が活用できるかを検証しました。

薄暗い森へと遷移したアカエゾマツ林の中に、広さ100平方メートルほどの陽が差し込むギャップを伐り開く作業を行いました。木と木の間隔が狭い林内でも馬は自由自在に行き来することができ、伐採木を狙った方向に引っ張り倒したり、運び出したりと、重機よりも小回りが利く働きぶりに職員一同驚かされました。また、作業後の地面をみると、土壌がほとんど踏み固められておらず、保水性や微生物活性を損ねることがないという点でも馬搬のメリットを感じました。

2日間の作業で2か所のギャップを造成することができ、作業効率も一定の成果が得られました。将来的には、既存の作業道から離れた造林地において、新たに重機路を整備することなく施業できる方法として、馬搬の導入も検討していきたいと思います。



伐採した木を馬で引き出す「馬搬」



大きな機械を入れずに行うため、環境負荷が低い

4

ヒグマ緊急銃猟訓練

10年
PROJECT

斜里町にてヒグマ緊急銃猟訓練を実施

全国的なクマの出没増加を受け、2025年9月から、市街地等にクマが出没し人身事故の発生が懸念される状況下において、市町村の判断で緊急的な銃による対応が可能となる「緊急銃猟」制度が新設されました。これを受けて斜里町では、市街地での緊急銃猟を想定し、役場、警察、地元ハンターなど約50人が参加する訓練を実施しました。

知床財団もこの訓練の企画立案に加わりました。参加者には詳細なシナリオを伏せて実施し、一定の緊張感の中でそれぞれの設定と役割に真剣に取り組むことができました。訓練後は課題の洗い出しも行い、関係機関と今後の体制について改めて確認しました。



クマが出没したことを想定した訓練



5

株式会社ゴールドウイン 店舗イベント

知床の大自然を生かしたイベントを開催

斜里町と包括連携協定を締結している株式会社ゴールドウイン知床店と連携し、2つのイベントを実施しました。

10月には、知床の漁業を代表する鮭をテーマとした「SALMON STUDY TOUR」を開催し、鮭の遡上観察や解体ショーに加え、地元産の鮭を使用した当日限定の食事を提供しました。当日は斜里町の水産課長にもご協力いただき、鮭を取り巻く環境の変化などにも触れていただきました。

また、3月には、エゾシカをテーマとした「SHIRETOKO NATIONAL PARK STUDY TOUR～原生の森を歩き、100年先を見据える～」を開催し、森づくりスタッフとともにトレッキングしながら知床の歴史や増えすぎたエゾシカとその対策について学んでいただきました。その後は場所を移し、エゾシカの解体ショーや、エゾシカ肉を活用した当日限定の食事を提供しました。両イベントともに「学び、食べ、楽しむ」体験型プログラムとなりました。



サケの解体ショー



サケと知床の漁業の歴史を学ぶ

6

シレココ・プロジェクト

ルサ地区の魅力を向上

ダイキン工業株式会社からのご支援をいただき、シレココ・プロジェクト推進業務を実施しました。「サケマス&遺跡を想うツアー in ルサ」は、ルサフィールドハウスへの誘客強化とルサ地区のさらなる魅力向上を目的として、9月13日～10月20日の期間にツアーを実施し、計46組108名にご参加いただきました。参加者にはルサ川でのシロザケの遡上と続縄文竪穴住居址を見学してもらい、古代から続く豊かな自然環境と人々の暮らしを感じていただく機会を提供しました。

また、ヒグマについて学ぶための教材として紙芝居「らうすに生きる じいちゃんとおくま」を作成しました。羅臼町で実際に起きた出来事を題材とし、ヒグマとの共存についてストーリー性をもたせて学習できる内容となっています。紙芝居は「SHIRETOKO Adventure Festival」や「Café 湯ノ沢」などのイベントで披露しました。

10年
PROJECT



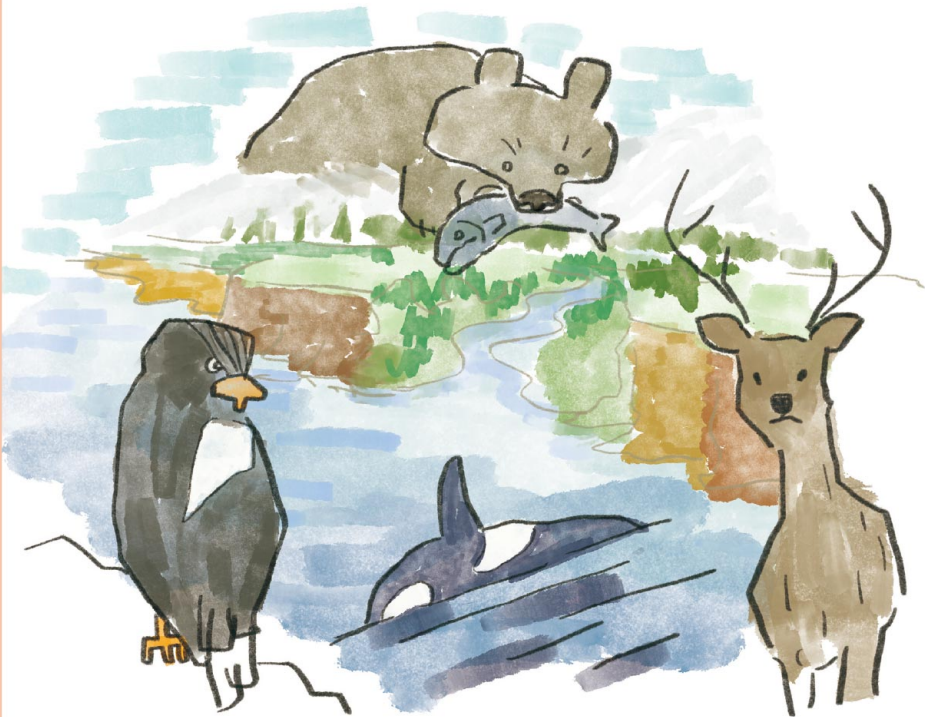
SHIRETOKO Adventure Festival で行われた紙芝居





知床財団主催 20周年シンポジウム（11月13日・2月28日）

世界遺産登録20周年記念事業 「世界遺産と地域」を実施



北海道庁赤れんが庁舎でも2月に開催



11月に斜里町で行われたシンポジウム



2025年は知床が世界自然遺産に登録から20年の節目の年となりました。これを記念し「世界遺産と地域」をテーマとした周年事業を1年間を通じて展開しました。本事業は知床財団が主催し、環境省や林野庁、北海道、斜里町、羅臼町といった行政機関などで構成される「知床国立公園60周年・世界遺産20周年記念事業実行委員会」との共催により実施しました。本事業の中核として、これまでの20年の歩みを振り返り、これからの知床のあり方を考える2つのシンポジウムを開催しました。

まず、11月には斜里町において、知床シンポジウム「世界自然遺産と地域のあゆみ」を開催しました。このシンポジウムでは、観光や漁業など、地域の暮らしや産業に深く関わる方々に登壇していただきました。地域の視点からこれまでの変化や課題を振り返り、自然と地域社会の関わりについて活発なパネルディスカッションを行いました。会場とオンラインを合わせて140名の方にご参加いただき、知床の未来を展望する貴重な機会となりました。

続いて2026年2月には、札幌市において世界自然遺

産登録20周年記念シンポジウム「知床世界自然遺産と地域のこれから」を開催しました。11月の斜里町での成果を踏まえ、世界遺産地域の「ガバナンス」をテーマに議論を深めました。基調講演は「世界遺産地域のガバナンス ～現状と課題、未来の展望～」をテーマとして九州大学の田中俊徳先生にご登壇いただきました。続いて科学的知見に基づき保全管理の助言を行う「知床世界自然遺産地域科学委員会」の各専門家による報告のほか、トークステージでは、気候変動や人口減少といった新たな課題に対して、科学と地域、行政機関がどのように向き合っていくべきか意見が交わされました。当日は、会場とオンラインを合わせて173名の方にご参加いただきました。

これら2つのシンポジウムを通じて、科学的な知見と地域の参画を両立させた「知床方式」の成果と、これからの時代における地域コミュニティの果たす役割の重要性が改めて確認されました。なお、本事業の集大成として、シンポジウムの記録や科学委員会のあゆみ、地域関係者からのレポートなどを網羅した記念誌を2026年度に取りまとめる予定です。



知床のノウハウを他地域へ

10年
PROJECT

道内各地でヒグマ講演会を実施



「クマ端会議」でのレクチャー

小学校での授業の様子

ヒグマが高密度で生息する知床で育つ子どもたちに、ヒグマへの理解を深め、正しい知識を身につけてもらうことを目的として、斜里町、羅臼町では知床財団の独自事業として20年以上にわたり教育機関での「クマ授業」を実施してきました。また、ヒグマに強い地域づくりを目指し、地域住民の皆さまと意見交換を行いながら、ヒグマに関する疑問や不安を共有する場として、井戸端会議形式の「クマ端会議」を2013年から継続して開催しています。

全国的にクマの出没が増加し、過去最多の人身被害が報告された2025年は、クマに関する報道を目にしない日がないほど、社会全体のクマに対する関心や危機

感の高まりを感じる一年となりました。こうした状況を受け、2025年度は道内各地の自治体や民間企業からヒグマに関する講演や研修会の依頼を多数いただき、ヒグマの生態や遭遇時の対処法、知床におけるヒグマ対策の取り組みについて紹介しました。

今後も、知床で長年培ってきたヒグマとの共存に関する知見やノウハウを活かし、講演会や研修会などを通じて、道内各地の「クマに強い地域づくり」に貢献していきたいと考えています。





訪れたくなる空間づくり、より良い施設を目指して

知床羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス 来館者過去最高記録更新

2025年度の年間来館者数は、知床羅臼ビジターセンターが64,990名、ルサフィールドハウスが11,760名となり、いずれの施設も過去最高となりました。また、この数はこれまでの来館者数推移のグラフを見ていただいてもわかるように、過去最高を記録するとともに、昨年度までの記録を大きく更新する数となりました。2024年度からの増加率についても羅臼町内の道の駅や観光船利用者、近隣他施設よりも高くなっています。

ルサフィールドハウスに関しては、2024年度に環境省による駐車場の拡張工事が行われ、これまでより利便性が向上しました。また、広くなった駐車場周辺を利用し、キッチンカーを誘致したルサカフェなどのイベントも実施しました。知床羅臼ビジターセンターにおいても、木育や食をテーマにしたイベント「Café湯ノ沢」を3回実施しました。裏手にある人気のスポット間歇泉広場と山小屋も活用し、館内外が利用者でにぎわいました。

両施設ともイベント時だけでなく、日常的なSNSでの発信や館内展示の更新を心がけています。これからも多くの方にご来館いただき楽しんでいただける施設を目指して、運営を続けていきたいと思ひます。



知床羅臼ビジターセンター年間来館者数推移



キッチンカーも登場



東京大学サマープログラム受け入れ

10年
PROJECT

「LEARN with Porsche」による 知床での学びの提供

東京大学先端科学技術研究センターとポルシェジャパン株式会社が共同で実施する中高生向け教育プログラム「LEARN with Porsche」において、2025年度は北海道を舞台とした実践型インターンシップが開催されました。

全国から参加した中高生に対し、知床財団では森づくり、野生動物対策、ビジター施設運営など、知床の現場に根ざした多様な業務体験を提供しました。また、知床の自然環境や地域課題について学ぶ座学も実施し、知床の価値や現場のリアルを伝える学びの場づくりに取り組みました。



知床の自然について学ぶ全国の中高生



道内で広がるクマ授業

10年
PROJECT

弟子屈町でクマ授業を実施

北海道釧路総合振興局管内に位置する弟子屈町の2校の小学校において、クマ授業を実施しました。授業では、ヒグマの生態や遭遇時の対処法について解説するとともに、ヒグマの着ぐるみを用いた遭遇シミュレーションも実施しました。近年、学校周辺での目撃が増加していることから、子どもたちは積極的に授業に参加し、実践的に学ぶ様子が見られました。

本授業を通して、知床地域に限らず、他地域においてもヒグマに関する教育の必要性が高まっていることを改めて認識する機会となりました。今後も道内にとどまらず、クマと人が共存できる社会の実現に向けて、普及啓発活動を継続してまいります。



クマ授業の様子



国立公園指定60年・世界自然遺産登録20年 記念

10年
PROJECT

SHIRETOKO Adventure Festival 2025開催！

2025年9月、「SHIRETOKO Adventure Festival」を開催しました。このイベントは2024年に引き続き、知床国立公園指定60周年と世界自然遺産登録20周年を記念して斜里町と羅臼町、株式会社ゴールドウィンと株式会社スノーピーク、環境省と知床財団で主催したものです。

キャンプ場がメイン会場の羅臼町では、地元の食材をふんだんに使ったご馳走の提供や、エゾシカオイルキャンドルづくりなど子どもたちも楽しめるワークショップが開催されました。斜里町では知床自然センターを拠点とし、国際アウトドア映画祭「BANFF MOUNTAIN FILM FESTIVAL」の上映やTHE NORTH FACE契約アスリートの石川直樹さんや田中陽希さんとともに参加できるアクティビティプログラムも開催されました。

知床半島の東西に位置する両町で同時開催したイベントは、盛況のうちに幕を閉じました。今後も知床において多様な立場の輪を広げながら、知床の価値を次世代へつないでいきたいと考えています。

※斜里町と株式会社ゴールドウィン、羅臼町と株式会社スノーピークはそれぞれ2021年より包括連携協定を締結しており、本イベントもその連携の一環として実施しています。



茅葺職人によるササのアート



海洋プラスチックでキーホルダーづくり

事業収支

2025年度は、受託事業による事業収益や物販・レンタル・研修実習対応等による普及研修収益が堅調に推移し、経常収益は約5億3,100万円（前年度比約7,400万円増）となりました。

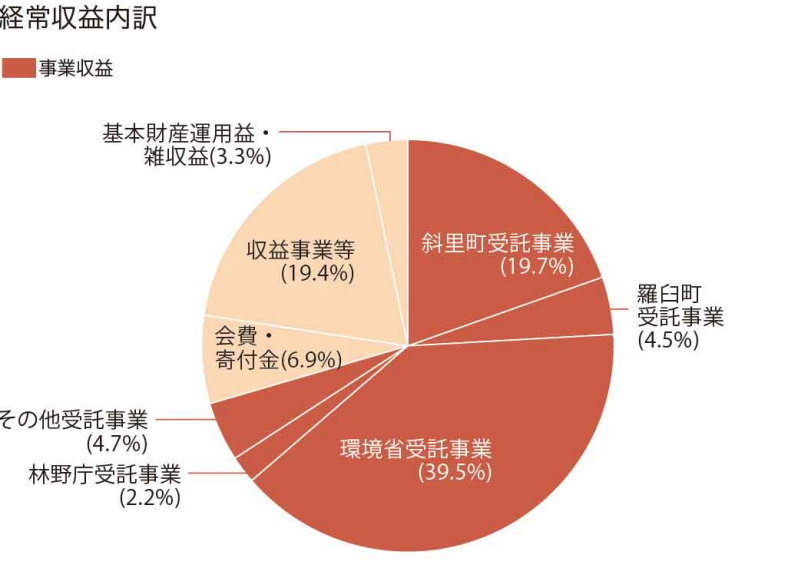
一方で、人件費や委託費等の増加により経常費用も増加しましたが、当期一般正味財産増減額は約392万円の黒字を確保しました。

2025年度 決算データ

正味財産増減計算書
(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日) (千円)

科目	金額
----	----

Ⅰ 一般正味財産増減の部		
基本財産運用益	56	
事業収益		
斜里町委託事業	104,316	
羅臼町委託事業	24,011	
環境省委託事業	209,448	
林野庁委託事業	11,438	
その他委託事業	24,834	
賛助会費・寄付金	36,421	
収益事業等	102,741	
雑収益	17,702	
経常収益計	530,967	
事業費	514,648	
管理費	12,304	
経常費用計	526,952	
当期経常増減額	4,016	
当期経常外増減額	1,200	
法人税等	1,297	
当期一般正味財産増減額	3,919	
Ⅱ 指定正味財産の部		
受取指定寄付金	30,931	
一般正味財産への振替額	△ 15,679	
当期指定正味財産増減額	15,252	
Ⅲ 正味財産期末残高		
	217,987	



貸借対照表 (2026年3月31日現在)		(千円)	
科目	金額	科目	金額
流動資産 A	245,176	流動負債 C	217,767
固定資産 B	250,806	固定負債 D	60,228
基本財産	45,000	① 負債合計 (C+D)	277,995
特定資産	179,847	指定正味財産 E	148,040
その他固定資産	25,959	一般正味財産 F	69,947
		② 正味財産合計 (E+F)	217,987
合計 A+B	495,982	合計 ①+②	495,982

2025年度 主な受託事業一覧

斜里町事業

- 知床自然センター他管理業務
- 知床五湖水道施設等管理業務
- ヒグマ管理対策業務
- 自然環境保護管理対策業務
- ヒグマDNAサンプリング業務
- ウトロ市街地電気柵更新業務
- しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務

羅臼町事業

- 知床羅臼ビジターセンター運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務
- シレコプロジェクト推進検討業務
- ヒグマ管理対策業務
- 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
- ヒグマDNAサンプル採取業務
- ヒグマ対策電気柵設置管理業務

環境省事業

- 知床羅臼ビジターセンター維持管理等業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
- 知床羅臼ビジターセンターリーフレット作成業務
- 羅臼湖リーフレット (英語版) 更新業務
- 知床野生動物保護管理対策業務
- 知床世界自然遺産地域ヒグマ管理に係る検体採取業務
- 知床国立公園来訪者に向けたヒグマ普及啓発リーフレット等制作業務
- 知床世界自然遺産地域科学委員会開催等業務
- 知床国立公園 (非積雪期) エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント 調査業務
- 知床国立公園 (積雪期) エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床世界自然遺産地域における浅海域貝類定量調査等業務
- 知床国立公園知床五湖利用調整地区管理対策等業務
- 知床五湖における園芸スイレンの持続可能な除去活動推進業務
- 知床半島先端部地区利用状況調査業務
- 知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務
- 知床国立公園ストーリーブック作成にかかる事前調査業務
- 世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム運営業務
- 知床五湖フィールドハウス運営管理等業務
- 知床五湖指定認定機関 (立入認定手数料)

林野庁事業

- 斜里・羅臼地区エゾシカ誘引捕獲森林被害緊急対策事業 (管理型捕獲)
- 知床ルシャ川等におけるサケ類の遡上数等調査事業

その他

北海道：	ルシャ川におけるサケ科魚類モニタリング調査委託業務
パブリックコンサルタント(株)：	サケ科魚類モニタリング調査委託業務
北海道農林土木コンサルタント(株)：	羅臼川稚魚調査業務
知床サステナブル実行委員会：	サケ科魚類モニタリング調査業務
知床国立公園60周年・世界自然遺産登録20周年記念事業推進協議会：	知床サステナブルフェス会場運営業務
	大阪・関西万博 地域紹介パネル デザイン制作業務
	企画運営補助業務
知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会：	レンタル備品管理業務
	知床国立公園 交通運行持続可能性調査検討業務
知床ガイド協議会：	知床五湖当日受付カウンター運営業務

いただいたご支援

2025年度、当法人にお寄せいただいた賛助会費は14,335千円、寄附金は37,338千円となりました。

多くの皆さまから温かいご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

2025年度 寄付をいただいた主な法人 (3万円以上)

		(千円・物品)	
ダイキン工業株式会社	8,500	株式会社アスティー	700
三井住友ファイナンス&リース株式会社	2,793	ワイエスインターナショナル株式会社	426
斜里町内企業	1,000	男山株式会社	97
札幌ライオンズクラブ	1,000	羅臼アポロ石油株式会社	50
株式会社知床グランドホテル	638	日本グッドイヤー株式会社	公用車タイヤ無償提供
		(敬称略)	

企業とともに、知床のために

コラボレーション商品の開発

賛助会員の企業を中心に、私たちの活動に賛同してくださる皆様とコラボレーション商品の開発に取り組んでいます。オリジナル商品の売上は独自事業のための貴重な財源となります。



森の散策には欠かせないウマ鈴と、アウトドアで大活躍のウォーターブルーバッグ。どちらも知床財団ロゴが入ったシンプルなデザイン



賛助会員

当法人の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆さまに支えられています。2025年度は、新たに個人246名、法人16団体の皆さまにご入会いただきました。
温かいご支援とご協力に、心より厚く御礼申し上げます。

2025年度 賛助会員の状況

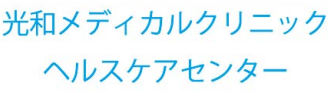
個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別年会員	総会員数
985名	1,135名	108団体	47団体	2,275件

2025年度 法人年会員 ※色字は斜里町・羅臼町の法人会員

法人名	所在地
株式会社ユートピア知床	斜里町
株式会社須田製版 釧路支店	北海道
ゴジラ岩観光	斜里町
知床オブショナルツアーズSOT!	斜里町
有限会社みさき水産	羅臼町
有限会社赤岩水産	羅臼町
羅臼漁業協同組合	羅臼町
ウトロ漁業協同組合	斜里町
オコック漁業生産組合	斜里町
株式会社辻中商店	羅臼町
峯浜水産有限会社	羅臼町
有限会社知床ネイチャークルーズ	羅臼町
株式会社秀岳荘	北海道
小川建設株式会社	羅臼町
ピックス株式会社	斜里町
民宿 鷺の宿	羅臼町
田島公認会計士事務所	東京都
サージミヤワキ株式会社	北海道
株式会社小柳中央堂	北海道
小野建設工業株式会社	羅臼町
株式会社ケミクル	羅臼町
知床ガイド協議会	斜里町
CSEG株式会社	東京都
ファームエイジ株式会社	北海道
羅臼石油株式会社	羅臼町
医療法人社団鶴翔会 ついで整形外科	東京都
土橋工業株式会社	斜里町
安田商事株式会社	斜里町
有限会社川上水産	羅臼町
斜里バス株式会社	斜里町
ワイエスインターナショナル株式会社	東京都
株式会社アヤマ緑化工業	北海道
アリス動物病院	神奈川県
株式会社バリュープロモーション	東京都
有限会社尾崎プロパティ	埼玉県
斜里建設工業株式会社	斜里町
斜里第一漁業協同組合	斜里町
有限会社片山電気商会	斜里町
しれとこくらぶ	斜里町
山洋建設株式会社	北海道
山本電子工業株式会社	北海道
知床サライ	羅臼町
LIFE FORCE Entertainment株式会社	北海道
ワンドリームピクチャーズ有限会社	北海道
office albireo	斜里町
株式会社クリオ	東京都
斜里通運株式会社	斜里町
BlueM株式会社	北海道
知床の宿 民宿いしやま	斜里町
株式会社セキグチ	埼玉県
有限会社阿保水産	羅臼町
高橋水産有限会社	羅臼町
Hair Salon YOCKEY	東京都
羅臼アポロ石油株式会社	羅臼町

法人名	所在地
東京シティ日本橋ロータリークラブ	東京都
株式会社開発工業	斜里町
株式会社JVCケンウッド・デザイン	東京都
有限会社横山測量設計事務所	斜里町
株式会社CreativeFirst	千葉県
株式会社CNS	北海道
どうぶつの内科・皮膚科クリニック	北海道
株式会社Bluedirection	神奈川県
Rujipart Photography	北海道
株式会社ナゴウェブ	愛知県
株式会社元木金物店	斜里町
ホクレン農業協同組合連合会	斜里町
STORY LLC.	東京都
株式会社RUNWAYS	東京都
株式会社Q.E.D.パートナーズ	神奈川県
株式会社ライフクリエーション	北海道
なみうちぎわをあるこう合同会社	斜里町
株式会社ピコラボ	福岡県
株式会社ベストアクティ	宮城県
BELAY Inc.	東京都
株式会社アスティー	東京都
株式会社Agoora	東京都
株式会社35design	北海道
株式会社北真	北海道
ベストセクション株式会社	埼玉県
株式会社キューブコンサルティング	埼玉県
株式会社トンデンファーム	北海道
ゆきすきのくに合同会社	東京都
エファタ株式会社	東京都
エレファントプラス株式会社	兵庫県
タレントスクエア株式会社	東京都
株式会社トイント	京都府
株式会社ヒナタヤ	神奈川県
株式会社TSUMUGI	大阪府
有限会社舟木商店	羅臼町
弁護士法人根室法律事務所	北海道
AGARUD	北海道
TechNoam株式会社	東京都
合同会社WOZ	東京都
株式会社Liam	福岡県
弁護士法人オホーツク北斗	北海道
株式会社エムコネクト	兵庫県
株式会社ゼロアクセル	東京都
株式会社サンジュウナナド	東京都
Fare	神奈川県
株式会社LIGNEA	東京都
株式会社ENTLA	東京都
株式会社レクリー	東京都
株式会社ロクス	東京都
HearJapan株式会社	東京都
合同会社ymt	福岡県
Pinsia電気脱毛専門店	大阪府
合同会社シューティングスター	北海道
アドマイヤー株式会社	埼玉県

2025年度 法人特別年会員

ファインネクス株式会社		IPS ホールディングス株式会社	
			
			
			
			
			
			

会員の募集

私たちの活動を応援してくださるサポーターを募集しています。

皆様から募った会費や寄付金は、
知床を未来につなげるために役立てられています。



個人

- 1年間応援 個人会員 5,000円/年
- 生涯応援 個人終身会員 100,000円/生涯

法人

- 法人特別年会員 100,000円/年
- 法人年会員 20,000円/年



入会用サイト

入会、寄付の方法については知床財団の賛助会員のサイトをご覧ください。寄付も随時承っております。→

知床財団への会費、寄付は所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となり、控除が受けられます。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。



知り



守り



伝える

組織概要

名称	公益財団法人 知床財団
設立	昭和63年(1988年)9月23日
設立者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所在地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地
目的	知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然環境の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事業	(1)野生動植物の調査・研究 (2)自然保護の普及啓発 (3)自然保護に関する諸団体との連携 (4)自然環境の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務 (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職員	46名(2026年3月31日時点)



Annual Report 年次報告 2025

発行：公益財団法人 知床財団
<https://www.shiretoko.or.jp>

発行日：2026年7月

Illustration：ETOBUNSHA